

京都市立病院 連携だより

vo.57
令和7年7月



- 新任部長ご挨拶
- 「膠原病内科」のご紹介
- 「消化器内科」のご紹介
- 器質性月経困難症と
当院で実施している
産婦人科低侵襲手術

「夏空へ」
百日紅が力強く咲きます

撮影:糖尿病・代謝内科部長 小暮 彰典

京都市立病院機構理念

京都市立病院機構は

- 市民のいのちと健康を守ります
- 患者中心の最適な医療を提供します
- 地域と一体となって
健康長寿のまちづくりに貢献します

京都市立病院憲章

- 1 質の高い安全な医療を提供するとともに、地域の医療水準の向上に貢献します。
- 2 患者の権利と尊厳を尊重し、心のこもった医療を提供します。
- 3 救急や災害時における地域に必要な医療を提供するとともに、地域住民の健康の維持・増進に貢献します。
- 4 病院運営に参画する事業者等とのパートナーシップを強め、健全な病院経営に努めます。
- 5 職員の育成に努め、職員が自信と誇りを持ち、全力で医療に従事できる職場環境を作ります。

新任部長ご挨拶

放射線診断科 担当部長 広川 侑奨



2025年4月より、京都市立病院 放射線診断科担当部長に就任致しました。

私は国立京都病院（現：独立行政法人国立病院機構 京都医療センター）で専門研修を受けた後、大和高田市立病院、京都大学医学部附属病院、大津赤十字病院、京都医療センター、医学研究所北野病院に勤務してまいりました。

国立京都病院では、放射線科医として必要な専門研修のみならず、消化管内視鏡や病理学の研鑽を積ませていただきました。大和高田市立病院では、多様なIVRや救急医療の経験をし、他科とのカンファレンスや研究会への参加を行い、いくつかの症例報告をさせていただきました。京都大学医学部附属病院では、上腹部グループに属し、BLADE (PROPELLER) を使用したMRIや量子ノイズ低減化フィルタを用いたCTの研究に従事し、稀少疾患を含む幅広い症例を経験させていただきました。大津赤十字病院では、画像診断、カンファレンスや研究会の参加、IVRなど臨床業務に従事させていただきました。京都医療センターおよび医学研究所北野病院では、臨床業務のほか、診療科としてのあり方や運営の大切さを学ばせていただきました。

これまで、多くの方々にご教示ならびにご協力いただきながら、様々な業務に取り組むことができました。京都市立病院では今までの診療経験を活かして、放射線科スタッフと連携し、それぞれの患者さんに安全かつ最適な検査や治療が実施できるように尽力していきたいと考えています。また、診療の質の向上や地域医療の発展に少しでも貢献できるよう、一層精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

「膠原病内科」のご紹介

膠原病内科 医長 田淵 裕也



ご挨拶

京都市立病院の膠原病内科はこれまで非常勤医による外来のみでしたが、令和7年度より常勤医として赴任させていただきました。現在、外来は、非常勤の村上孝作医師が月曜日を担当、私が水曜日・木曜日・金曜日を担当しており、地域連携枠として月曜日（1枠）・水曜日（1枠）・木曜日（1枠）を設けております。現時点では総合内科の傘下の位置づけで運営しております。今後ともご指導とご鞭撻の程を何卒宜しくお願い申し上げます。

「膠原病」とは

膠原病 (collagen disease) という用語は、1942年に米国の病理学者のPaul Klempererが関節リウマチや全身性エリテマトーデス、リウマチ熱、などをまとめた疾患群として提唱したとされています。本邦では、翌年に東京帝国大学医学部の病理医・内科医である清水直容（しみずなおやす）が「膠原病」という訳と共に疾患概念を普及させたと言われています。「膠」という漢字は「にかわ」とも読めますが、これは動物の皮や骨から出来るゼラチン状の物質を意味し、その「原」材料であるコラーゲンが「膠原」と訳されました。当時は結合組織内のコラーゲンが組織学的に一番侵されると考えられ、そのような命名となりました。

その後、「膠原病」は自己免疫・炎症性疾患であると認識されていくようになり、1970年以降、欧米では connective tissue disease (結合組織病) という用語が使用されるようになりました。また、全身性自己免疫疾患を包括する用語として rheumatic disease (リウマチ性疾患) という用語が使用されるようにもなりました。rheum という言葉はヒポクラテスの時代から、rheumatism という英語は14世紀頃から使用されているそうですが、rheum とはギリシャ語で「流れる」を意味し、何らかの因子(今でいうサイトカインや自己抗体など)が全身を流れて病態を起こすという、先見の明のある表現と言えます。本邦では「膠原病」という用語が広く普及したため今でも使用されています。

膠原病の診断の特徴



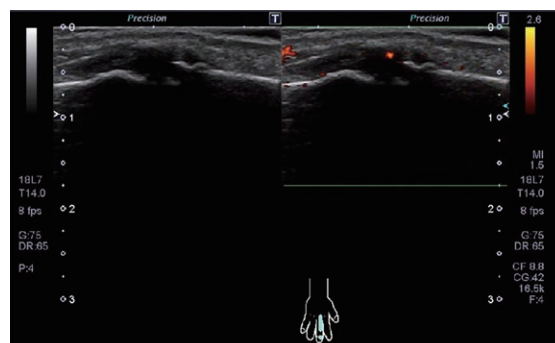
膠原病では、感染症や悪性腫瘍と異なり、特定の所見・症状があれば病名が確定出来るというものがないことが多いです。例えば、リウマチ因子が陰性の関節リウマチもあれば、筋症状を伴わない皮膚筋炎 (amyopathic dermatomyositis) という疾患も存在します。従って、多くの膠原病では、「診断基準 (diagnostic criteria)」は存在せず、治験や臨床研究の際に異なる疾患の患者さんが混入しないように (= 偽陽性例が極力少なくなるように) 作成する「分類基準 (classification criteria)」を参考に、専門医が総合的に「診断」を行います。関節リウマチの「診断基準」はこの世に存在したことはなく、存在するのは「分類基準」のみです。なお、指定難病では例外的に行政的な基準としての「診断基準」が作成されています。(海外では「医療的適格基準 (medical eligibility criteria)」とも呼ばれます。) マクロ的視点では、膠原病をどのように「分類」することで最も適切に診療出来るかを考え、実臨床でのミクロ的視点では、それに基づき個々の患者さんをどのように「診断」することで最も適切に診療出来るか、ということのリウマチ専門医は日々考えています。

治療薬の進歩と検査の進歩



21世紀に入り、抗体製剤やJAK阻害薬の登場など、膠原病の治療は飛躍的に進歩しましたが、一方で、感染症をはじめとする副作用のリスクにもより注意しないといけない時代となり、より正確な診断・病勢把握が求められるようになってきました。

そのため、当科では、問診・身体診察・検体検査・画像検査の全てを大切に、最適な診療を提供出来るように努めています。関節エコーはそのための有力なツールの1つで、関節リウマチ・脊椎関節炎・痛風・偽痛風やその他の膠原病の関節炎の診断に有効な他、更年期障害による関節痛など膠原病ではない疾患との鑑別にも有効です。



関節エコーの例

超早期関節リウマチで見られる、関節腔内脂肪織 (fat pad) 内の血管新生
(60歳代女性、RF陽性、抗CCP抗体陰性)
(自験例)



当科では、患者さんのライフスタイルや嗜好を尊重し、また、利用出来るモダリティを必要に応じて最大限駆使することで、最新のエビデンスに基づいた、最適な診断・治療を提供し、なるべく患者さんの人生の質を高められる診療を心がけております。

「消化器内科」のご紹介

～胆膵内視鏡診療について～

消化器内科 副部長 西方 誠



当科では胆道疾患・膵疾患の診断および治療において、内視鏡専門医による内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査(ERCP)および超音波内視鏡検査(EUS)を中心とした胆膵内視鏡診療を積極的に行っております。

●胆膵内視鏡とは

総胆管結石や膵・胆道癌などによる急性胆管炎・閉塞性黄疸に対し、内視鏡的に十二指腸乳頭からアプローチするERCP処置や、膵腫瘍などに対する診断目的としてのEUS-FNA(超音波内視鏡下穿刺吸引法)があります。

当科では緊急内視鏡検査にもできるだけ対応する形にしており、ご紹介頂いた方や救急受診された方にも迅速に対応し安全性に配慮して内視鏡処置を行うように常に心がけています。

●EUS-FNAについて

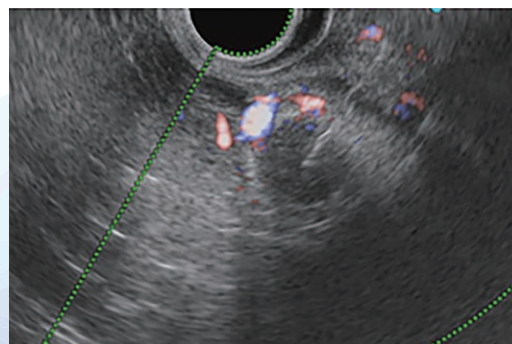
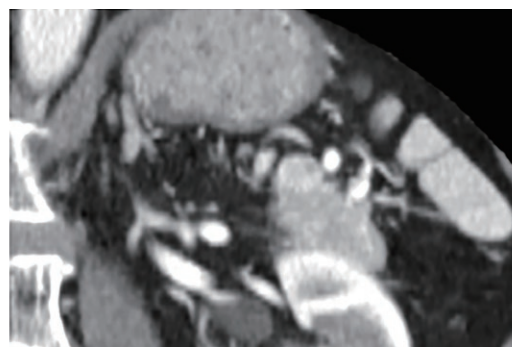
近年、消化器疾患の早期発見と診断精度の向上により、より低侵襲で高精度な診断法が求められています。その中でもEUS-FNAは膵臓・胆道系・縦隔・消化管粘膜下腫瘍や周囲リンパ節などの病変に対して、安全かつ正確に組織を採取できる優れた検査手技として確立されています。

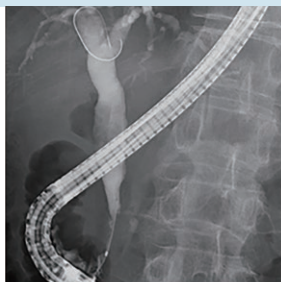
EUS-FNAは超音波内視鏡を用いて消化管内から周囲臓器を詳細に観察しながらリアルタイムで針を刺入し病変の細胞や組織を採取する方法です。小さな病変や周囲臓器との境界が不明瞭な病変に対してもEUSならではの高分解能によって明確に描出し精密な局在診断および病理診断が可能となります。

当院では専門の内視鏡医による検査を積極的に実施しており、2023年度は41件、2024年度は56件の検査を施行しており年々増加傾向にあります。

病理診断は迅速かつ信頼性の高い体制を整えており、迅速細胞診(ROSE)を可能な限り実施し穿刺回数を減らすように心がけています。

症例は膵尾部の1cm程度の多血性腫瘍であり、EUS-FNAにて神経内分泌腫瘍と診断され外科手術を施行しました。





●胆道鏡検査について

経口胆道鏡検査は、通常のERCP検査に続いて直接胆管内に細径の内視鏡を挿入し胆管内の明瞭な画像を得ることができる検査です。胆管狭窄の診断や胆道癌の腫瘍進展度診断において非常に有用な検査法であり、胆管内の病変を直視下で生検することも可能です。

当科では経口胆道鏡SpyGlass™DS II (ボストン・サイエンティフィック社)を導入し、診断困難症例や術前の精査目的に積極的に使用しております。

症例は遠位胆管に狭窄があるも、ERCP生検で悪性所見を認めず当科に紹介となった方です。当科でもERCP生検では悪性所見が得られませんでした。SpyGlass™DS IIによる胆道鏡観察で腫瘍性病変が確認できたため外科手術を行い胆管癌の診断を得ました。

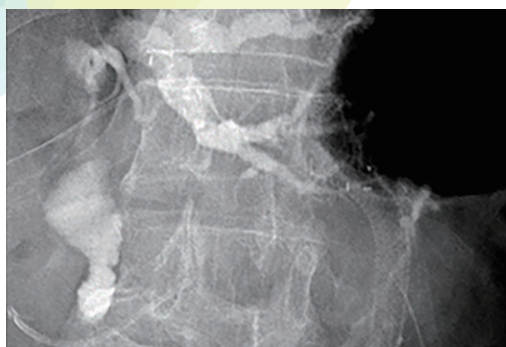
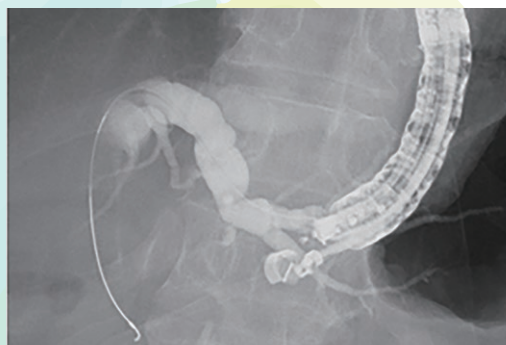


●EUS-BDについて

EUS-BD(超音波内視鏡下胆道ドレナージ)とは、胆道閉塞などで通常のERCPが困難な場合に行うEUSを用いた胆道ドレナージの方法です。

ERCPで胆管挿管が不成功な場合や、腫瘍もしくは術後腸管などで十二指腸乳頭部への到達が困難な場合に減黄処置の代替方法として行われます。経皮的なドレナージに比べ経皮的チューブ留置が不要なメリットがあり、近年専用のデバイスが開発されてきたことから成熟した手技になりつつありますが、反面重篤な偶発症も起きうるため慎重に適応を判断する必要があります。当院では消化器外科および放射線科と連携し、個々の患者さんの病態に応じた胆道ドレナージができるように心がけております。

症例は膵頭部癌による閉塞性黄疸の方で、ERCPによる経乳頭的ドレナージが困難であったため、EUSにて胃内から左肝内胆管を穿刺し金属ステントを留置するEUS-HGS(EUS-guided hepaticogastrostomy)を施行し減黄が得られました。



最後に

当科では胆膵領域の疾患に関して、良悪性問わず消化器外科、放射線科および腫瘍内科と連携し最適な治療を提供できるよう心がけております。

引き続き地域の医療機関とも連携し、患者さんに寄り添う医療を行って参りますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

器質性月経困難症と 当院の産婦人科低侵襲手術

産婦人科 部長 小芝 明美

月経困難症とは

月経困難症とは、月経期間中に月経に随伴して起こる病的症状（下腹部痛・腰痛・頭痛・吐き気などの不快な症状）の総称です。その中でも、子宮や卵巣の疾患など、明確な病変（器質的疾患）によって引き起こされるものを「器質性」と呼びます。一方で、明確な病変を認めない月経困難症を「機能的月経困難症」と呼び、思春期の女性に高頻に認められます。

月経困難症は性生殖期女性のQOL（生活の質）を著しく低下させるだけでなく、器質性月経困難症の場合には、将来の不妊症のリスクや、過多月経による鉄欠乏性貧血を引き起こすため、月経痛や過多月経を有する女性に対しては正しく診断し、治療介入することが大切です。

器質性月経困難症

器質性月経困難症の原因となる主な疾患には以下のような疾患が含まれます

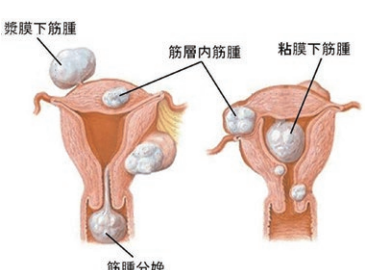
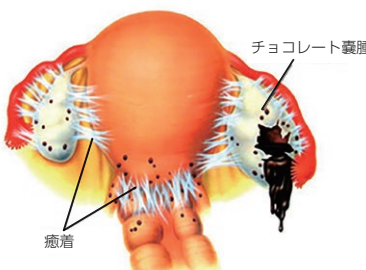
子宮筋腫

- ・子宮の平滑筋にできる良性腫瘍です。
- ・大きさや発生位置は多彩であり、症状の強さも異なります。特に粘膜下筋腫の場合にはひどい過多月経の原因となります。漿膜下筋腫の場合は頻尿等の症状が出るがありますが、無症状のまま1kgを超える大きな子宮筋腫になっていることもあります。

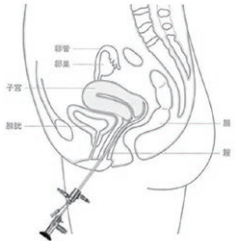
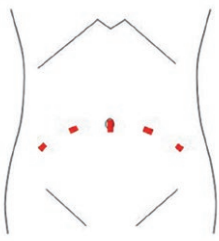
子宮腺筋症

- ・子宮内膜様組織が子宮筋層内に入り込むことで子宮筋層が腫大し、月経のたびに強い月経痛と過多月経が生じます。

器質性月経困難症をきたす主な疾患

病名	子宮筋腫	子宮腺筋症	子宮内膜症
状態			
特徴	子宮にコブのような良性の腫瘍ができる病気	子宮内膜に似た組織が子宮筋層内で増殖する病気	子宮内膜に似た組織が、卵巣、腹膜など子宮内側以外の場所で増殖する病気
好発年齢	30歳代～40歳代	30歳代後半～40歳代	20歳代～30歳代
主な臨床症状	過多月経・貧血	疼痛・過多月経・貧血	疼痛・不妊
薬物療法	・偽閉経療法（GnRHa療法）	・プロゲスチン製剤 ・偽閉経療法（GnRHa療法）	・LEP製剤 ・プロゲスチン製剤 ・偽閉経療法（GnRHa療法）
手術療法	・筋腫核摘出術（腹腔鏡・子宮鏡） ・子宮全摘出術（根治治療）	・子宮全摘出術（根治治療）	・子宮内膜症除去、癒着剥離術 ・子宮+卵巣全摘術（根治治療）

当院で実施している低侵襲手術の主な特徴

子宮鏡下手術	腹腔鏡手術	ロボット手術
		 
粘膜下筋腫のみ 体表に傷が残らない 術後に帝王切開不要	創は小さい 鉗子がまっすぐ動く 大きな視野展開が可能	創は小さい 鉗子に関節があり開腹手術に近い動き 拡大視野で細かい血管までよく見える

- ・30～40代に多く、妊娠歴のある女性に多いとされます。

子宮内膜症

- ・子宮内膜に似た組織が子宮の内腔以外の場所（主には腹腔内、ダグラス窩）に存在し、月経のたびに出血・炎症を起こし強い月経痛が生じます。
- ・若年～30代の女性に多く、性交痛、不妊の原因にもなります。

器質性月経困難症の治療

器質性月経困難症に対しては疼痛や過多月経に対する原因疾患に応じた治療が基本となります。大きく分けてホルモン療法と手術療法があります。

鎮痛薬 (NSAIDs)： 痛みの緩和

ホルモン療法： 低用量ピル・LEP製剤・プロゲスチン製剤・GnRHアナログ製剤を患者背景や症状に応じて使い分けます。治療期間は長期におよびますが、QOLの向上をはかります。

手術療法： ホルモン療法不応の重症例や妊娠を希望する症例、根治術を望む症例に対し低侵襲手術をおこないます。

- ・子宮内膜症に対する病巣除去術（腹腔鏡下）
- ・子宮腺筋症に対する子宮全摘術（腹腔鏡下・ロボット支援下）
- ・子宮筋腫に対する筋腫核出術（腹腔鏡下・子宮鏡下）または子宮全摘術（腹腔鏡下・ロボット支援下）

当院における低侵襲手術

こうした器質性月経困難症の原因疾患に対し、患者さんのライフステージや治療希望を踏まえた低侵

襲手術を積極的に導入しております。

当院ではダヴィンチシステムを用いたロボット支援手術、4Kシステムを用いた腹腔鏡下手術、子宮鏡下手術の低侵襲手術を疾患の状態や患者さんの背景、患者さんの希望に応じて使い分け、個々の患者さんに最適な治療を提供します。子宮筋腫が大きく重量が1kgを超える場合などは子宮筋腫の搬出のため、小切開を併用する場合がありますが、当院では婦人科良性疾患に対しては基本的にほぼ全ての症例で低侵襲手術にて治療を行っています。これにより開腹手術では術後約7日間の入院が必要でしたが、ロボット支援手術・腹腔鏡下手術では術後4日目、子宮鏡手術では日帰り入院もしくは手術翌日の早期退院が可能となりました。



今後も地域のかかりつけ医の先生方と連携を密にし、紹介患者さんに対して適切かつ丁寧な治療を提供してまいります。月経痛や過多月経、過多月経による貧血でお悩みの患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひお気軽にご紹介ください。

紹介患者さん診療・検査事前予約ご利用のご案内

医療機関用 「SAKU洛連携」

Web予約

ご予約時には事前に利用登録が必要です。

【利用申し込み】【Web予約システムについて】は下記ホームページをご確認ください。
(<https://www.kch-org.jp/medical/chiikirenkei>)

●予約方法

①Webページ上で予約を取得してください。

「SAKU洛連携」

(<https://www3.e-renkei.com/hospital/group-sakuraku/login.php>)

②患者さんに以下をお渡しください。

- ・予約受付票
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・画像データ等

③「診療情報提供書」を当日中にFAXで送信してください。

④患者さんに、以下をお持ちのうえ、予約受付票のご案内時間までにお越しいただくようお願いください。

■先生から受取ったもの

- ・予約受付票
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・画像データ等

■別に必要なもの

- ・マイナ保険証又は健康保険証
- ・診察券
- ・お薬手帳又はお薬のわかるもの

医療機関用 外来診療・検査事前予約 FAX予約

待ち時間を短く患者さんが円滑に診療・検査を受けられるように、病院及び診療所の先生から『事前予約』をお受けしております。

●予約方法

①「紹介患者さん事前予約申込FAX用紙」に必要事項を記入し、地域連携室までFAXで送信してください。

②直ちに、予約をお取りし、「予約受付票」をFAXで送信します。ただし、受付時間外のFAXについては、翌営業日の朝にご連絡いたします。

③患者さんに以下をお渡しください。

- ・予約受付票
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・画像データ等

④ご来院時、患者さんには以下をお持ちいただきます。

■先生から受取ったもの

- ・予約受付票
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・画像データ等

■別に必要なもの

- ・マイナ保険証又は健康保険証
- ・お薬手帳又はお薬のわかるもの
- ・診察券



予約受付先

●京都市立病院地域連携室

TEL (075)311-5311(代) (内線2113)

FAX (075)311-9862(専用)

●事前予約医療機関専用電話

(075)311-6348

事前予約受付時間(土日祝日を除く)

平 日/8:30~19:00(木曜日は17:00まで)

FAXは、24時間お受けしています。

地域連携相談業務

平 日/8:30~17:00(月曜日~金曜日)

患者さん用 紹介患者さん事前予約センター 電話予約

先生からの紹介状があれば、患者さんからのお電話で、ご自身のスケジュールに合わせた予約をお取りいただくことができます。(※担当医師の指定、検査の予約はできません)

●予約方法

①お電話をされる前に、患者さんには以下をお手元にご用意いただけます。

- ・事前予約申込票(必要事項記入済みのもの)
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・診察券 ※初診でもご予約可能です。

②患者さんから「事前予約センター」へお電話いただけます。

専用電話番号 (075)311-6361



受付時間/月~金(9:00~17:00)

※土・日・祝・年末年始(12/29~1/3)を除く

●ご予約は前日17:00まで受付しております。

▶電話予約時に確認させていただく内容

- ・患者さんのお名前(漢字・ヨミガナ)
- ・生年月日・性別
- ・ご連絡先(電話番号等)
- ・紹介元医療機関名・予約診療科

③ご来院時、患者さんには以下をお持ちいただきます。

■先生から受け取ったもの

- ・事前予約受付票(必要事項記入済みのもの)
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・画像データ等

■別に必要なもの

- ・マイナ保険証又は健康保険証
- ・お薬手帳又はお薬のわかるもの
- ・診察券

健康診断や人間ドック、各種検診で「要精密検査」となった場合でも、上記と同様の手続きで事前予約が可能です(初診でも予約可)。ぜひご利用ください。

※ただし、市立病院で人間ドックを受けられた場合は、健診センターでの予約となります。

専用の申込用紙は、京都市立病院のホームページからダウンロードが可能ですので、ぜひご利用ください。



地方独立行政法人 京都市立病院機構

京都市立病院

地域連携室

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1-2

TEL 075-311-5311(内線2113) FAX 075-311-9862

事前予約医療機関専用電話(地域連携室直通) 075-311-6348

<https://www.kch-org.jp/>

